

「中国、ロシアへの親近感最低に 米韓欧印、東南アジアは上昇」

日本人が親しみを感じる国と親しみを感じない国との差がさらに顕著になっている現状が、内閣府の調査で明らかになった。中国に親しみを感じる日本人は前年に比べ 5.1 ポイント減り 12.7%、ロシアに親しみを感じる日本人も前年の 5.0% よりさらに低下して 4.1% といずれも調査開始以来、最少となっている。一方、米国、西欧、東南アジア、韓国、インドに親近感を持つ人は増えており、日本政府の外交政策に相通じるような結果となっている。

1月19日に公表された「外交に関する世論調査」は、全国18歳以上の日本国籍を持つ3,000人を対象に昨年9～10月に郵送法で実施され、1,649人から有効回答を得ている。最初の調査が実施されたのは1975年で、主要国・地域に対する親近感を問う調査項目が入ったのは1978年から。以後、対象国・地域の一部を変えながら毎回、共通の調査項目となっている。

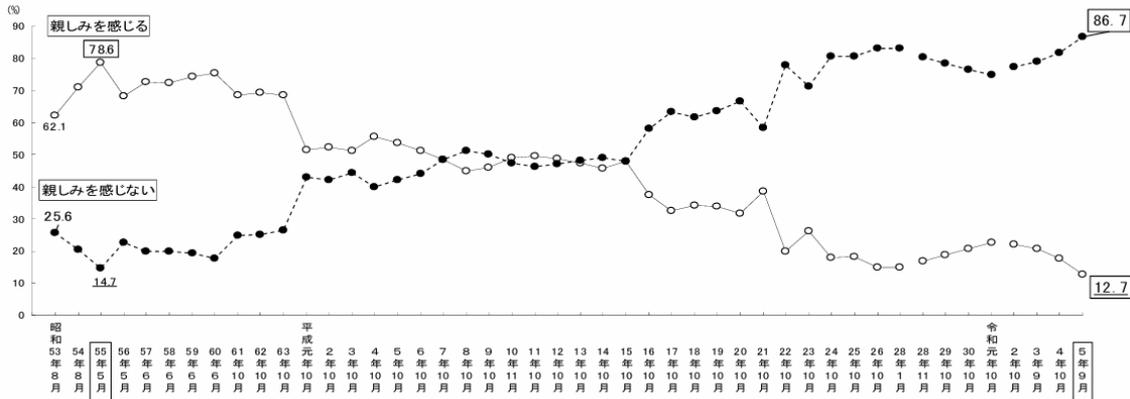
中国に親しみ感じない 86.7%

今回の調査で目を引くのは、中国に対し親しみを感じる日本人がさらに減っている現状を示す結果。前回までの調査で中国に親しみを感じる日本人が最も多かったのは、華国鋒首相が訪日し、日中科学技術協力協定が署名された1980年だった。日中平和友好条約の署名や、鄧小平副総理の訪日など日中間で同様の大きな出来事があった年の2年後にあたる。「親しみを感じる」（「親しみを感じる」と「どちらかといえば親しみを感じる」の合計）が78.6%に上り、「親しみを感じない」（「親しみを感じない」と「どちらかといえば親しみを感じない」の合計）はわずか14.7%だった。

しかし、その後、途中浮き沈みはあるものの親近感の低下傾向が続く。2014年10月と2016年1月の調査で、「親しみを感じる」は14.8%まで落ち込む。その後、回復時期が4年間続いたものの2021年9月の調査から再び低下に転じる。その後もこの流れは止まらず、今回の調査でついに過去最低値を2.1ポイント下回る12.7%となった。「親しみを感じない」50.7%と「どちらかといえば親しみを感じない」36.0%を合わせた数も86.7%と、これまでの最高値を上回った。

中国に対する親近感

	令和4年10月		令和5年9月
<u>親しみを感じる（小計）</u>	<u>17.8%</u>	→	<u>12.7%</u> ↓
・親しみを感じる	2.2%	→	2.1%
・どちらかというとき親しみを感じる	15.6%	→	10.7% ↓
<u>親しみを感じない（小計）</u>	<u>81.8%</u>	→	<u>86.7%</u> ↑
・どちらかというとき親しみを感じない	35.9%	→	36.0%
・親しみを感じない	45.9%	→	50.7% ↑



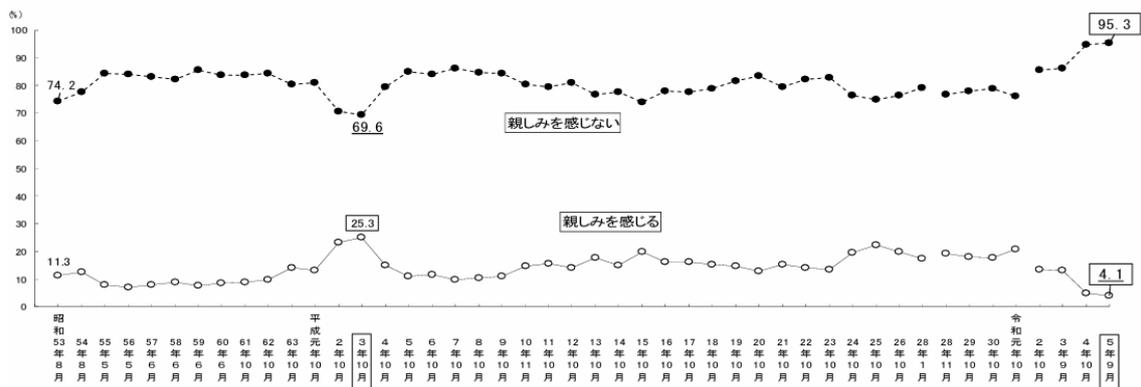
(内閣府『外交に関する世論調査』の概要)から)

ロシアに親しみ感じる 4.1%

ロシアに対する親近感はより低い。「親しみを感じる」は前年の 5.0%よりさらに低下して 4.1%、親しみを感じない」も 94.7%から 95.3%に増え、それぞれこれまでで最低、最高となった。

ロシアに対する親近感

	令和4年10月		令和5年9月
<u>親しみを感じる（小計）</u>	<u>5.0%</u>	→	<u>4.1%</u>
・親しみを感じる	0.5%	→	0.7%
・どちらかというとき親しみを感じる	4.6%	→	3.4%
<u>親しみを感じない（小計）</u>	<u>94.7%</u>	→	<u>95.3%</u>
・どちらかというとき親しみを感じない	27.3%	→	28.3%
・親しみを感じない	67.4%	→	67.0%



(内閣府『外交に関する世論調査』の概要)から)

中国とロシアに関しては「現在の日本との関係は全体として見ると良好だと思うか」を聞いた問いに対する答えも同様に悪化した。中国に対して「良好だと思う」「まあ良好だと思う」を合わせた数は5.6%と前年の11.0%から大きく減少し、「良好だと思わない」「あまり良好だと思わない」を合わせた数も、前年の84.4%から90.1%に増えている。「良好だと思う」の5.6%は、日本政府が尖閣諸島の国有化を閣議決定し、日中両国の対立が激しくなった2012年調査時の4.8%に次いで少ない。「良好だと思わない」の90.1%も同じ2012年の92.8%と翌2013年の91.0%に次ぐ多さだ。

ロシアに対し「良好だと思う」「まあ良好だと思う」を合わせた数も3.1%から2.4%に減少、「良好だと思わない」「あまり良好だと思わない」を合わせた数も93.5%と前年の92.3%からさらに増えた。いずれもこれまでで最小、最大となっているだけでなく、前々回2021年調査の「良好だと思う」「まあ良好だと思う」を合わせた数20.6%、「良好だと思わない」「あまり良好だと思わない」を合わせた数79.0%をみると、悪化が急激であることが分かる。

さらに「今後の日本との関係の発展は両国、アジアおよび太平洋地域にとって重要か」を聞いた答えからも、中国、ロシアに対する期待がしぼんでいることは明らか。中国については「重要だと思わない」「あまり重要だとは思わない」を合わせた数が27.8%と前年の22.1%を上回り、ロシアも37.9%から44.0%に増えた。

親近感向上目立つ韓国

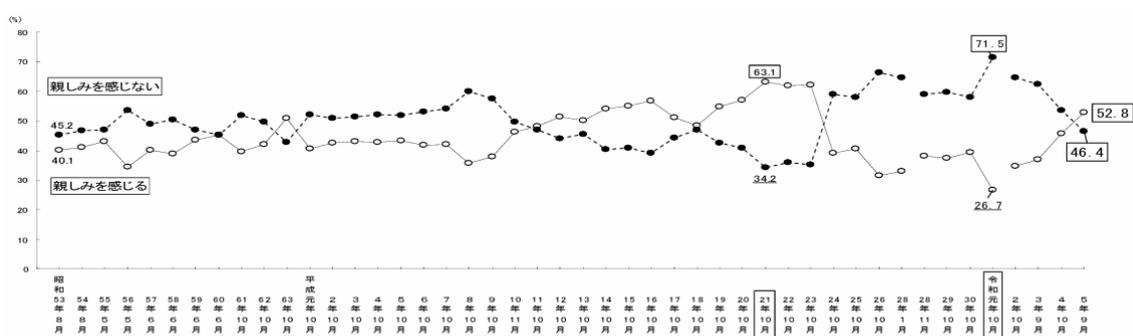
「外交に関する世論調査」は、中国、ロシア以外の5カ国・地域に対する日本人の親近感も聞いている。こちらは軒並み「親しみを感じる」が増えている。

米国 87.4% (前年 87.2%)、西欧 (英国、フランス、ドイツなど) 74.3% (同 71.4%)、東南アジア (タイ、インドネシアなど) 71.9% (同 71.5%)、韓国 52.8% (45.9%)、インド 52.7% (同 51.3%) という具合だ。

特に目立つのが韓国。「親しみを感じる」が 50%を超えたのも、「親しみを感じない」46.4% (同 53.7%) を上回るのとともに 2011 年以來。現在の韓国と日本との関係を「良好だと思う」「まあ良好だと思う」を合わせた日本人も、前年の 28.1%から 46.1%と大幅に増えた。「良好だと思わない」「あまり良好だとは思わない」を合わせた数も前年の 67.3%から 49.8%へ大きく減っている。良好でないと思う人がまだ多いとはいうものの、その差は大きく縮まっているのが目を引く。「今後の韓国との関係の発展は、両国やアジアおよび太平洋地域にとって重要か」を聞いた問いに対する「重要だと思う」「まあ重要だと思う」を合わせた答え 73.1% (前年 68.0%)、「重要だと思わない」「あまり重要だと思わない」を合わせた答え 22.9% (同 27.7%) からも韓国に対する見方が大幅に改善されたことがうかがえる。

韓国に対する親近感

	令和 4 年 10 月		令和 5 年 9 月
<u>親しみを感じる (小計)</u>	45.9%	→	52.8% ↑
・ 親しみを感じる	11.0%	→	10.7%
・ どちらかというとき親しみを感じる	34.9%	→	42.1% ↑
<u>親しみを感じない (小計)</u>	53.7%	→	46.4% ↓
・ どちらかというとき親しみを感じない	29.2%	→	27.0%
・ 親しみを感じない	24.5%	→	19.4% ↓



(内閣府『外交に関する世論調査』の概要) から)

調査は、開発途上国に対する資金協力や技術協力などの開発協力についても聞いている。「積極的に進めるべきだ」は 27.2%と前年の 29.7%を下回り、「なるべく少なくすべきだ」が前年の 12.2%から 13.0%に増えている。「やめるべ

きだ」も 2.3%から 3.2%とわずかとはいえ増えた。「積極的に進めるべきだ」はこれまでの調査で 20%台と 30%台がほとんどだが 2014 年以降 2021 年までは 30%台が続いていた。

日文 小岩井忠道 (科学記者)

関連サイト

内閣府「『外交に関する世論調査』の概要」[gairyaku.pdf \(gov-online.go.jp\)](https://www.gaiyo.go.jp/gairyaku/pdf/gov-online.go.jp)

関連記事

2023 年 10 月 18 日 [中日联合民调结果公布, 两国民众彼此印象均恶化 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](https://www.keguan.jp.com)

2023 年 02 月 20 日 [日本内閣府調査 :日本人对中亲近感进一步下降, 对俄也恶化 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](https://www.keguan.jp.com)

2022 年 03 月 24 日 [对日本的好感度各国存在巨大差异, 中国较去年大幅下降 - 客观日本 \(keguan.jp.com\)](https://www.keguan.jp.com)